

あのベストセラーを 『下妻物語』『嫌われ松子の一生』『パコと魔法の絵本』 中島哲也監督と 松たか子、そして 37人の13歳が 告白

松たか子 岡田将生 木村佳乃
監督・脚本：中島哲也／原作：湊かなえ「告白」(双葉社刊)
kokuhaku-shimasu.jp

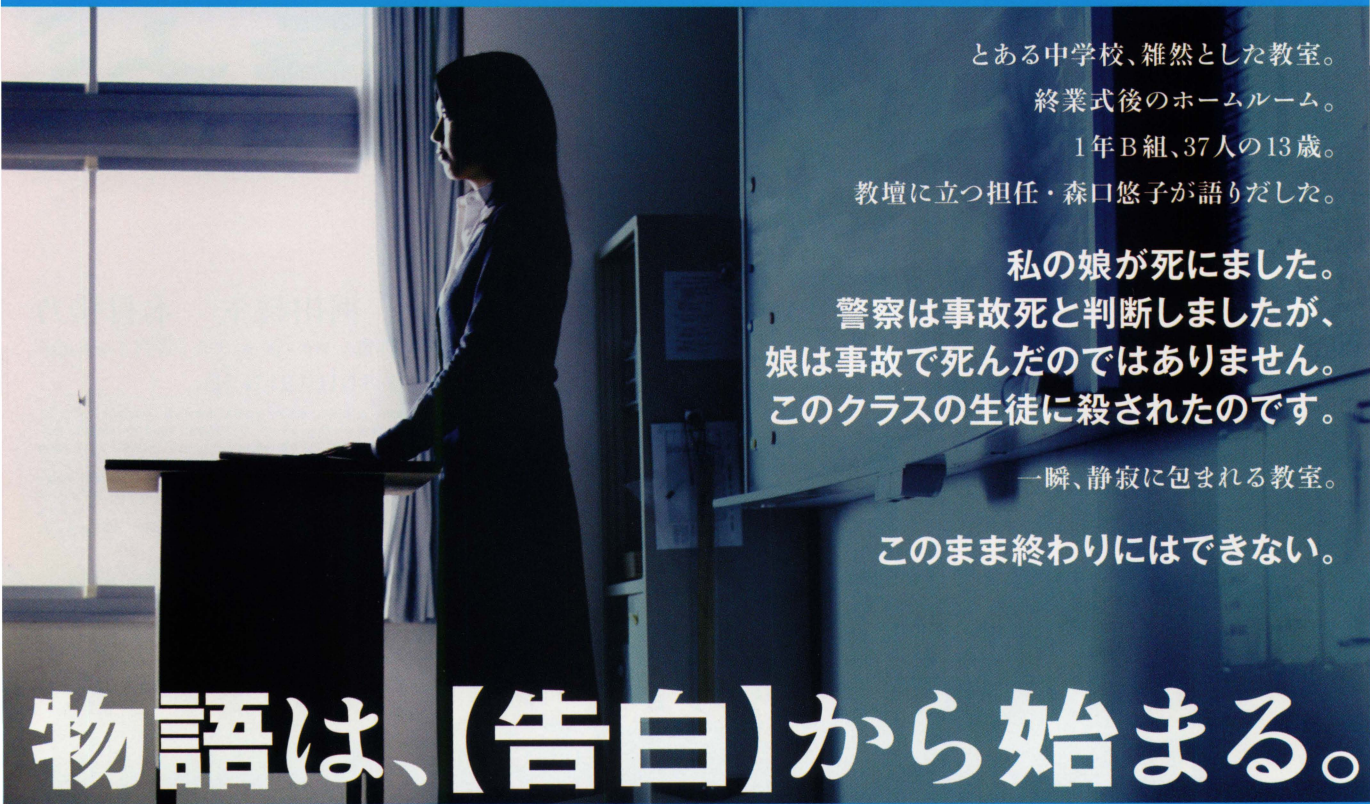
製作：島谷能成 吉武弘二 吉田親市 鈴木ゆたか 諸角 裕 宮路敬久 喜多繁樹 大宮純靖／エグゼクティブ・プロデューサー：山川 潤 塚田泰吉／企画：川村元氣／プロデューサー：石田康治 鈴木ゆたか 窪田義弘／撮影：阿藤正一 尾津厚史／照明：高倉 晃 録音：矢野正人／美術：森島千穂子／スタイリスト：中谷弘光／ヘアメイク：山崎 聡／装飾：西尾共未／記録：長坂由起子／助監督：水元幸嗣／製作担当：斉藤大和／ビジュアルエフェクトスーパーバイザー：柳川雅博／ビジュアルエフェクト・プロデューサー：土屋真治／CGディレクター：増尾隆幸／編集：小池義幸／音楽プロデューサー：金福豊彦／キャスティング：星沢眞二部／ラインプロデューサー：加藤賢治／制作プロダクション：東宝映像制作部 シタラ／製作：東宝 博報堂DYメディアパートナーズ フェリス・ワンダーワークス シタラ 双葉社 日本出版販売 Yahoo! JAPAN TSUTAYA グループ／配給：東宝 ©2010「告白」製作委員会 監製：東宝



先生の娘を殺したのは、誰？

衝撃のベストセラー×中島哲也監督＝ 誰も見たことのない極限のエンターテインメントが 誕生

09年、本屋大賞に輝き、上半期単行本フィクション部門第1位(日販調べ)を記録したベストセラー、『告白』(湊かなえ／双葉社)。「生徒に娘を殺された」という女教師の告白から始まり、殺人事件に関わった登場人物たちの独白形式で構成される物語は、虚実入り混じり、驚愕・戦慄・唖然の連続。ショッキングすぎる内容で話題騒然の衝撃作が、なんとこの度! まさかの映画化! 監督をつとめるのは、独創的な映像感覚と確かな演出力で、『下妻物語』『嫌われ松子の一生』『パコと魔法の絵本』などの大傑作を生み出してきた、天才・中島哲也。主人公・森口悠子を演じるのは、『ヴィヨンの妻〜桜桃とタンポポ〜』であらゆる映画賞を総なめにし、いま最も注目される女優・松たか子。中島監督から「この役は松たか子しか考えられない」と熱烈なラブコールをうけて、生徒に娘を殺される女教師という困難な役柄に挑んだ。また、熱血すぎてかなりウザい新人教師役に岡田将生、殺人犯の過保護すぎる母親役に木村佳乃、そして全国1000人以上のオーディションで選ばれた1年B組の生徒たち=37人の13歳たちが出演する。今年6月、誰も見たことのない極限のエンターテインメントが誕生する。



とある中学校、雑然とした教室。

終業式後のホームルーム。

1年B組、37人の13歳。

教壇に立つ担任・森口悠子が語りだした。

私の娘が死にました。

警察は事故死と判断しましたが、
娘は事故で死んだのではありません。
このクラスの生徒に殺されたのです。

一瞬、静寂に包まれる教室。

このまま終わりにはできない。

物語は、【告白】から始まる。



森口先生(松たか子)

娘を生徒に殺された女教師。罪を犯して反省しない犯人に、想像を絶する方法で罰を与える。それはなんと…!?



ウェルテル(岡田将生)

新任の熱血教師。一切空気を読まず、ありとあらゆる地雷を踏みまくり、生徒たちを翻弄する。そして新たな事件が…。



犯人Bの母(木村佳乃)

殺人を犯した生徒・犯人Bの母親。我が子を溺愛するあまり無実を盲信する。やがて恐るべき事態へと…。



犯人A

未成年につき
写真掲載不可

成績優秀で模範的な優等生だったが、森口の娘を殺害。事件後、いじめのターゲットになる。その犯行の理由とは…?



犯人B

未成年につき
写真掲載不可

平凡で目立たない生徒だったが、犯人Aの共犯になり森口の娘を殺害。事件以降、引きこもりとなるが…。



少女A

未成年につき
写真掲載不可

犯人Bの幼なじみ。事件後、犯人Aに接触する。その真意とは…。



6月5日(土) 全国東宝系ロードショー

フジTV 前・アクアシティお台場
シネマメディアージュ
03(5531)7878
通常料金での全席指定・定員入替制

劇場内での映画の
撮影・録音は犯罪です
映画盗撮の検挙率は99%
0120-550098
盗撮は犯罪です